

令和3年度 都城島津伝承館企画展

武士と茶の湯

◎問い合わせ 都城島津邸 ☎23-2116

島津茶園遠景写真

昭和40年代以前の島津茶園を撮影したものの。都城は古くから茶の名所として知られていて、都城島津家第20代当主久茂の代で茶づくりに着手。第28代当主久厚が、戦後改めて島津茶園を開園し、現在に至ります。

武士と茶の湯の関わり

武家社会において、茶の湯は政治・文化2つの面で大きな意味を持っていました。織田信長や豊臣秀吉などの権力者たちは、名だたる茶道具を収集し、茶室を建て、茶会などを開催することで、茶の湯を振興。また、島津家においても義弘をはじめ、上井寛兼や伊集院忠棟（幸侃）ら家臣たちの間で茶の湯が熱心に行われていました。

武士たちにとって茶の湯は、互いの関係性を円滑にするための一つの政治的ツールとしての役割を担うと同時に、「武士が持つべきたしなみ」として重視されていたのです。また、戦いを生業とする武士たちに、ひとときの安らぎをもたらすものでもありました。

見どころ

今回の企画展では、武家社会において茶の湯がいかに浸透し、その中で、島津本家と都城島津家をはじめとする家臣団が茶の湯をどのように受け入れ、組織運営や地域の文化形成に反映させていったのかを、都城島津家に伝わる文献史料や美術工芸品などからひもときます。

企画展の概要

●会期 10月3日(日)まで

※月曜日は休館日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)

●観覧料 一般220円(160円)、高校生・大学生160円(110円)、中学生以下無料

※()内は20人以上の団体料金

●主な展示史料

【南方録】(都城島津邸蔵)

千利休の高弟であった堺・南宗寺の南坊宗啓が、利休から授かった茶法の秘伝を書き記したものとされる書。利

休没後100年の元禄3年(1690)、福

岡藩黒田家の家

老立花実山により発見されたと伝承されています。真偽については諸説

南方録



南方録

ありますが、わび茶の精神を伝えるものとして、長らく重要視されてきました。

【御近習役(写)】(都城島津邸蔵)

都城島津家に置かれていた役職の概要を記した書。

本企画展と深い関わりがある「茶道役」の、詳しい職務内容を知らることができません。

【島津久茂像】(都城島津邸蔵)

修復後初公開となる、都城島津家第20代当主久茂の肖像画です。家臣の学問奨励や、領内の産業振興に力を注いだ久茂。茶の功績としては、都城島津家の医師であった池田貞記を京都の宇治へ派遣し製茶法を学ばせ、宝暦7年(1752)、製茶1壺を桃園天皇に献上しました。

御近習役



御近習役



島津久茂像